

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500377		
法人名	社会福祉法人 新生寿会		
事業所名	グループホーム新賀Ⅱ きのこのき		
所在地	岡山県笠岡市新賀3220-28		
自己評価作成日	平成27年3月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikogensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3370500377-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成27年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人、ご家族の想いを大切にし、その人らしく生活をして頂いている。(生活歴をしっかり把握し、生かしている。) ・ご家族との信頼関係を大切にしている。また、「第二の家」として選んで良かったと思って頂けるよう、支援をしている。 ・年に1度家族会を開催し、年間行事や日常生活での一人ひとりの入居者様の様子を詳しくお伝えできるように、映像にまとめて鑑賞していただいている。 ・兼務の看護師が在籍していることで、医療面のケアも行っている。ホームで出来る範囲は限られるが、最善のサポートを心がけている。(ターミナルにおけるケアについても含む。)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体法人「きのこエスポール病院」の敷地内にあるきのこグループの中で最後に作られた施設、「グループホーム新賀Ⅱきのこのき」も開設して14年になる。今の管理者になって3年余り、同敷地内にある3軒のグループホームとの距離もぐっと縮まり、4GH合同の運営推進会議や避難訓練を実施する等、協力体制も出来てきた。2年前から看護師が隣の「GH新賀」と兼務での勤務体制になり、それが良い相乗効果を生んでいる。若い管理者は「利用者と一緒に何かしたい。充実した生活を過ごしてもらい、自分達も楽しく仕事をしたい」と熱い思いを抱き、昨年度に続き目標に「外出支援」を掲げている。その思いは確実に実践されつつあり、利用者に軽度の人が増え、職員の異動があったことも手伝って、ホームの雰囲気も以前より活気のある空気になっていった。職員のやる気と行動的なエネルギーを感じた。まさに、皆が集まる場になって欲しい、ここから育てて欲しいとの願いを込めてつけられた「きのこの樹」の名の由来にふさわしいホームになっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今までの生活を崩すことなく、その方の気持ちを理解しながら個人の価値観を尊重するケアを提供いたします。」という理念の下、一人一人の生活を大切に考えている。また、ミーティングで意識統一をしている。	法人の理念を掲げると共に、ホームの目標として「外出支援」にも取り組んでいる。利用者も軽度の人が多くなり、活気が出てきた今では実現可能な範囲となり、外出の頻度も多くなった。今後は家族にも協力してもらいながら外出の定着化を図りたいと思っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件が悪く難しいが、運営推進会議を通じて地域のサロンへ参加させてもらっている。地域としては小規模だが、近隣のGHや同施設内の入居の方が訪問されるなど、交流が定着している。	地域の「棕の木サロン」への参加がこれまでの年1回程度から年3回になり、参加できる人や回数も増え参加率が良くなった。法人施設での各種イベントには毎回参加しており、地域の人やボランティアの人、他施設の利用者等との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やサロンへの参加などで少しずつ改善されている。また、地域包括支援センター主催の研修会にも参加し、認知症に対する理解を深めるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	私達ができること、地域の方が望んでいることなど、運営推進会議やサロンを通じて話し合いをしており、今後も継続していきたい。	法人の4グループホーム合同で交流スペースのある「きのこのき」で定期的に開催している。市の担当者、民生委員、各GH管理者が参加して、活動報告や情報交換をしながら意見交換をしている。議事録は玄関に置き情報開示している。	運営推進会議に毎回、参加依頼はしているが、家族の参加が少ないのは淋しい。各GHの家族代表1名ずつでもいいと思うるので、開催日時や内容を工夫する等、職員間で話し合い、引き続き検討して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂き、また必要時には連絡を取り、市役所を訪ね相談をしている。	地域包括の担当者とは利用者の事例を相談したり話し合う機会も多い。市・地域包括主催の研修会には職員がよく参加している。何かある度に市の担当者へ相談し、助言や指導をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、皆で話し合っている。身体拘束は行っていない。	玄関の施錠はしていないが防犯・安全対策の為、夜間の施錠はある。外に出ていく人には、職員が見守りながら付き添っている。身体拘束委員会があり、職員間で言葉による拘束や身体拘束をしないケアの周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフのコミュニケーションを大切にしており、今後も意見を出し合ったり、情報交換をしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加することで理解していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、相談時、入居時にきちんと伝え、ご家族からの相談も受けている。 改定の際も、その都度書面や口頭で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会は比較的好く来て頂いているので、その時にしっかり話をしている。その時に直接要望を聞けることは少ないが、今後も継続し、ご家族との信頼関係を築いていきたい。	年1回、家族会をして親睦を図っている。利用者の入れ替わりもあり、開催日時等の家族アンケートを実施して家族の参加率アップを図っている。個々の入所時からの家族との「相談記録」は詳細な記録であり、家族の思いや要望もよく把握している。	家族と職員との電話や面会時の会話が詳細に記録してある「相談記録」はとても素晴らしい。家族の心情や要望も記録より窺うことが出来る。重要ポイントもマーカーを引くなど職員間で共有しやすい。今後も是非、継続を望む。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勤務の合間などでコミュニケーションをとり、スタッフの思いを聞き反映させている。	毎月1回、職員ミーティングで話し合っている。法人のリスクマネジメント・身体拘束等の各委員会の報告や利用者の呼び方、支援方法等について職員間で意見交換をしている。日々の申し送りノートで情報の共有を図り、個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談を行うなど、スタッフとしっかり話ができる時間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内での勉強会に参加している。 今年度は、積極的に外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後も積極的に外部研修や法人内の勉強会に参加していきたい。また、かかわる姿勢や日頃の介助等について、色々な案を出し合い、より良い方法はないか話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはご本人、ご家族の方としっかり話をし、少しでも安心して頂けるよう心掛けています。また、可能な場合には入居前に会いに行き、ご本人の様子やご家族が不安に感じている事を聞かせてもらってる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いを聞かせてもらえるようしっかり話をしている。 また、面会のお願いもしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分自身の想いを伝えることができる方には聞き取りを行っているが、中には難しい方もおられるのでその時にはご家族の想いを聞き、プランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に心掛け、共に生活をし、居心地の良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂きやすい雰囲気作りをし、来られた際にはコミュニケーションをしっかりととり、ご家族の想いを聞いている。 また、毎月手紙を送り、生活状況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族とのやりとりを大切にしている。ご家族の面会も多く、また、面会規制をされていない場合には親戚や職場の同僚だった方等会いに来られ、居室やリビングでゆっくり過ごせるように環境には配慮をしている。	職員と一緒に外出した時にその人の自宅の前を通ったり、定期的に馴染みの美容院に行っている人もいる。利用者の会話の中によく出てくる地名の場所へ一緒にいき、海を眺めて帰る事もしている。利用者のこれまでの馴染みの関係や場所を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適度にスタッフが間に入ることで、入居者同士の心地よい空間作りに努めており、大切にしている。また、一人で過ごす時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、いつでも相談していただけるようご家族にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を大切にし、活用している。 しっかりコミュニケーションをとり、不安を取り除くようにしている。 ご家族ともこまめに話をし、ミーティングで意識統一を図っている。	一人ひとりの人生歴を本人及び家族から情報収集して作成し、生活歴シートにも記録している。本人が大切にしてきたもの、生き方等を参考にしながら、日頃の何気ない会話の中で思いを引き出していく努力をしている。	思いを引き出してあげる為には人生歴を知っている事が必要であり、利用者から聞いた事、新たに分かった事等を追記していき、人生歴を膨らませてあげる等、生活歴シートの活用の仕方を工夫してみるのも良い。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族の話を聞き、思いや希望の把握をしている。 ミーティングだけでなく、申し送りノート等を活用しながら全員で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	しっかり関わり、小さな気づきも記録に残し、変化に気付くようにしている。 何か変わったことがあれば、その都度ご家族の方に連絡している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活、ご本人やご家族の意見を基にミーティングをし、介護計画を作成している。 ご家族と話をした内容はきちんと記録として残している。	本人・家族の意向や要望を聞きながら、ケアプランを作成し、3ヶ月毎にモニタリングをしている。プランの目標欄には本人の求めている生活像が具体的に書かれている。日頃から家族とのやりとり・会話を記録して意向を把握しプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には表情、言葉、しぐさなど、また写真など活用しながら、本人のことがよく分かるよう工夫している。 その時に居合わせなかったスタッフが記録を読んだ時に、分かるように記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の言葉やご家族の想いをしっかりと聞き、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サロンへの参加を通じて、少しずつではあるが地域とのつながりを構築している。運営推進会議や地域包括支援センター主催の研修などを通じて、色々な方法を検討していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり、かかりつけ医がいる方には受診を支援している。	法人の病院の院長が主治医であるが、不在や緊急時には病院の他の医師が診察してくれる。診療科目にない疾病の人は他の医療機関を受診している。職員に看護師がおり、老健の看護師の訪問もあるので日頃の健康維持管理は出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気づきも含め、情報を細かく伝えている。わからないことはすぐに相談できる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時に、ご家族、病院関係者との話し合いの場をしっかりと持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前、入居時に出来ることを伝えた上で家族の思いも聞き、必要に応じてその都度話し合いをしている。	開設当初からの利用者の看取りを行なった。最期の日、遠方にいる家族が来るのを待っていたかのように、到着した家族に会ったその数分後に眠るように逝去した。利用者の最期の瞬間に立ち会った職員にとって感動的で忘れられないシーンとなった。	看護師が隣のGHと兼務で配置され、ホームでも看取りをするようになった。法人の病院や老健がすぐ近くにあるので、GHでの看取りに対する見解は職員間でも相違があるだろうが、貴重な経験を通して成長することは自信に繋がってくる。これからも頑張りたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小さな変化に気付けるようにしっかりと関わっている。 危機管理意識が低いため、委員会などを通じて意識向上をしていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループ全体での避難訓練は定期的を実施している。近隣GHで合同避難訓練も実施している。今後も継続すると共に、グループ全体でお互いに応援体制を整えていきたい。	4GH合同の避難訓練を実施し、消防署の立会いの下、通報・誘導訓練、避難経路の確認をした。今年度は有事の際の電力確保の為、法人の意向でホームの屋根に太陽光パネルを設置した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声の大きさ、トーンなど、十分に気を付けている。 個人情報の扱いに配慮している。	職員は日頃から接遇マナーを学び、排泄の声かけをする時は、近くでそっと言葉をかける等、十分な配慮をしている。羞恥心が強くて拒否をする人には、同性介助や職員を替えて対応する等の工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や、その方の傍に居ることで思いに気付いたり、またご家族の話を通して、思いに応えられるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によりすぐに対応出来ないこともあるが、常に入居者の様子に気を配り、なるべく希望、思いに添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類をご家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活の中で話をしながら決めたり、行事も大切にしたいと思っている。手伝いは自主的な方もいれば、スタッフから声をかけさせてもらい、一緒に行くこともある。	食事は3食、職員が手作りしているが、出来る人は一緒に手伝っている。食事を普通食とミキサー食にして半々に出し、本人に食べやすい方を選んでもらう事しているが、その人は昼食の「てまり寿司」を両方とも食べていた。利用者が一緒に作ったという「よもぎ団子」をおやつに頂いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に変化のある方は、しっかりと記録に残している。 食事は皆一緒だが、量や形態を変える工夫をしている。 水分には気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく自分で行えるよう声掛けや必要な介助を行っている。 口腔ケア用品は、それぞれに適したものを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	小さなサインに気付きながら、さりげない声掛けを行い、介助をしている。また、その方の状態変化に合わせて使用する下着なども全員で考えている。	排泄が自立している人は自分の居室のトイレに行っているが、介助が必要な人はリビングで過ごす事が多い日中は1階の共同トイレに行く事が多い。個々の排泄リズムを把握して、職員が声かけや誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、おやつ等工夫し、運動や腹部マッサージで自然排便が行えるよう促している。 (根菜類、ヨーグルト、オリゴ糖など工夫し提供)難しい方は服薬で調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時は決めず、一人一人に合わせている。介助者の人数も、安全で安心して入浴してもらえるよう、その人に合わせている。	一般浴槽にリフトも設置されている。現時点で二人介助は3名、シャワー浴や浴槽で入浴しているが、重度化している人が増えてきたので、職員間で入浴方法等を検討しているところである。入浴拒否の人はなく、皆さん、風呂好きで気持ち良く入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活ペースに合わせ、少しでも快眠や休息がとれるように働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的や副作用についてきちんと理解が出来ているかは不安がある。薬の説明書は、いつでもすぐに確認できるようにファイルに入れて保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に散歩に行ったり、ご家族の協力も得ている。 気の合う方同士との時間も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には散歩やドライブに行っている。今後もご家族の協力を得ながら、外出していきたい。	利用者に非日常的な生活を楽しんでもらおうと外出支援に積極的に取り組んでいる。初詣、花見、外食、ドライブ、買い物等、職員は利用者の希望を聞きながら個別の支援もしている。天候の良い日は外で日光浴をしたり、散歩に行くのが日課になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理出来る方がいないので、全て施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時にはしており、ご家族の方にもお願いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光の加減、温度など気を付け、快適に生活出来るよう工夫をしている。 入居者の作品もリビングへ飾っている。 横になってくつろげるスペースがリビングにある。また、季節ごとにインテリアを変えている。	リビングにはお雛様が飾っており、桃や水仙の花が季節を感じさせる。テーブル、畳コーナー、ソファがあり、好きな場所で気の合う人同士おしゃべりしている。坪庭には明るい陽射しが入って、庭木や観葉植物の緑が目を楽しませてくれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくり過ごしたり、気の合う方と過ごせる空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも居心地良く過ごして頂けるように、インテリアや家具は使っていたものを持ってきていただくようお願いしている。写真や手紙なども飾っており、その人らしい空間作りを行っている。	1F・2Fの各居室にはトイレと洗面所が設置されている。ラジオや写真、本、小物類等馴染みの物を持ち込んでその人らしい部屋になっている。本が好きな人は個人的に「婦人公論」を定期購読する等、それまでの習慣を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	インテリアや家具の配置を工夫し、転倒の防止を行っている。 居室には表札を掛けている。		